

菅江真澄の記録した「塚」

－横手盆地の事例を中心に－

今野沙貴子*

秋田県における塚研究は現在、横手市雄物川町館野遺跡（註1）を最新として、塚の発掘調査事例を少しずつ蓄積している段階にあると言える。遺跡として認識されている事例も、まだそれほど多くはない。本稿では、今後の秋田県における塚研究の参考資料を得ることを目的とし、手始めに横手盆地内の事例を対象として、菅江真澄が記録した「塚」の集成を行うこととする。

今回集成の対象としたのは、真澄に「ツカ」という用語で呼ばれている事例のみであり、個々の名称に関しては、真澄が記録している呼称をそのまま引用している。このような基準で遺跡の選定を行った結果、今回の集成には所謂マウンドの形態をとる「塚」以外に、「塚」と呼ばれる石造物も含まれることとなった。「塚」と呼ばれなかった石造物については、今後の課題としたい。真澄の時代には既に遺構が残存していなかった事例（地名が「塚」の存在を伝えている事例等）に関しても、今回は扱わないこととする。ただし、判別の難しい事例のうち、遺跡の由来等の情報が比較的詳細に記されているものに関しては掲載することとした。本稿執筆のために使用した文献は、内田武志・宮本常一（編）の未来社版『菅江真澄全集』である（註2）。

番号	名称	所在地	内 容	巻・ページ
1	せんだん塚	湯沢市高松字三途川	天正(1573-1592)頃、長年の願いが満ちたとして、自ら焼け死んだ修行僧の墓。	5 巻p14・65
2	幸左衛門塚	湯沢市高松字三途川	幸左衛門の墓。その下方に、幸左衛門湯という温泉がある。	5 巻p15
3	石経塚	湯沢市高松字三途川	路傍に石仏が沢山あり、その辺りで一字一石経が拾える。経塚が崩落したもの。	5 巻p15・68
4	獅子壘 ししづか	湯沢市松岡字坊中	昔「山田村」の獅子舞と松岡の獅子舞が闘った際、負けた方の獅子頭を埋めた。	5 巻p35
5	系図塚	湯沢市字切畑	佐々木家の古記録を埋めた塚。木が生えている。	5 巻p43
6	面塚	湯沢市高松字中村	古い面を埋めた塚であるとの伝承。	5 巻p60
7	塚原	湯沢市高松字中村	寺に伴った墓地。寺は消滅。墓地内に元禄(1688-1704)の碑がある。	5 巻p61
8	古塚	湯沢市相川字中山	「中山村」に所在。2基存在。東側の塚には大木が、西側の塚には小木が生えている。この塚を掘った際、太い骨が沢山出土したという話が伝わる。	5 巻p81
9	一里塚	湯沢市桑崎字中泊	木が生えており、その下に道祖神がある。	5 巻p86
10	石塚	湯沢市相川字中山	宝暦元年(1751)、別当福寿院8世宥応法印の代にこの塚を掘ったところ、大きな骨が出土したという伝承。	5 巻p82
11	三十人塚	湯沢市(旧雄勝郡稲川町)	最上義光の使者らを文禄(1592-1596)頃討ち取り、遺体を埋めた所との伝承。	5 巻pp.121-122
12	一里塚	湯沢市皆瀬	「本小安村」へ続く道の途中。李の木が道の両側に生えている。	5 巻p130
13	十里塚	湯沢市関口字寺沢	道沿いに立地。真澄の時代には、既に塚は消滅。	5 巻p148・150
14	仏塚	雄勝郡羽後町	元稲田稲荷社本社より東、路傍にある。	5 巻p192
15	蜈蚣堆 むかでづか	雄勝郡羽後町杉宮	大ムカデにまつわる伝承がある。	5 巻pp.192-193
16	馬頭塚	雄勝郡羽後町杉宮	宝永(1704-1710)頃、「宿町」の佐々木理右衛門が掘り出した馬の頭蓋骨2頭分を供養した所であるとの伝承。「宿町」の久昌寺に所在。	5 巻p187・pp.193-194
17	琴壘 ことづか	湯沢市寺沢	強盗の多い地に所在。強盗に討たれた人を路傍に埋めたという伝承。	5 巻p214
18	塚	湯沢市(旧雄勝郡雄勝町)	菅兵庫頭が飼っていた牛の塚(墓)。神として祀られた。	5 巻pp.217-218
19	庚申塚	湯沢市秋ノ宮?	「役内村河連」に所在。旧雄勝郡雄勝町内。	5 巻p223
20	由理備中の壘 つか	湯沢市秋ノ宮字内城	墓であろう。真澄の時代、既に文字の判読が難しい状態であった。	5 巻p224

* 秋田県埋蔵文化財センター南調査課調査・研究員

番号	名称	所在地	内 容	巻・ページ
21	なできりづか 撫伐り塚	湯沢市柳田	「御膳川」の川端に所在。宝永4年(1707)秋、村に流行していた疫病を封じ込めるため、湯沢長谷寺17世無難寛老和尚に供養を依頼。和尚が経を読み、塚を「安楽塚」と改名したところ、疫病は収まった。安永6年(1777)の洪水で塚が崩れた際、大きな人骨が大量に出土し、円通寺法師の骨ではないかと言われた。	5巻pp239-240
22	塚	雄勝郡羽後町糠塚	吉三道心という僧の塚(墓)。	5巻p258
23	旭塚	大仙市角間川町字木内	「朝日神子」という巫女の入定塚であるという伝承。「塚松」が生えている。現在松の木はなく、文政五年(1822)、「黒九カ惟孝」建立の石碑が塚上に置かれる。(図版1)	6巻p17・ pp.19-20
24	塚	大仙市角間川町	館稲荷明神社の傍に所在。塚の下に「白専女」が住んでいるという伝承。	6巻p17
25	塚	大仙市角間川町	浄蓮寺の弟子・権斎の墓。真澄の時代に、塚上に権斎遊士墓という碑を建立。	6巻p19
26	左門塚	横手市大森町板井田	伊達左門貞家の墓。貞家は、伊達三河殿の養子とも伝えられる。墓碑に「玉翁祖白大禅定門 寛永九年(1632)壬申四月二日」の銘。旧大森町指定文化財。(図版2)	6巻p29
27	つかほら 墓地	横手市大森町袴形	「子守山」と呼ばれる墓地。	6巻p32
28	昼飯塚	横手市雄物川町沼館字宮ノ目	「下河原村」の西端から見ると、夕方過ぎ、昼飯塚の上に鬼火が見える。	6巻p56
29	首塚	横手市雄物川町今宿	沼柵の戦いの際、千の首を埋めたという伝承。「首塚神社」として現存。(図版4)	6巻p47・ pp.62-63
30	傾城塚	横手市雄物川町造山	由来は不明。梨の木が生えている。	6巻p72
31	蝦夷塚	横手市雄物川町造山	由来は不明。昔蝦夷が住んでいた所か。	6巻p72
32	塚松	横手市雄物川町会塚字石塚	「朝日の松」「夕日の松」という2本の古木。人の墓と推測させるような伝承あり。	6巻p84
33	道祖神	横手市大森町猿田	小さな松の木の下に積石塚を築き、木製の「陰形」をすえて祀っている。	6巻p106
34	めくら塚 (御座塚)	横手市大森町上溝字屋川	盲人を埋めたとの伝承もあるが、保呂羽山の神輿を置いていた場所でもある。	6巻p111・170
35	杉塚(行人塚)	横手市大森町上溝	佐々木多総右衛門家の庭に所在。昔、そこに尼が修行した庵があった。庵の廃絶後、そこに仏具が埋められ、女・子供の立ち入りが禁じられるようになった。	6巻p114
36	経塚	横手市大森町上溝字中野	菅見沢の出口に所在。石経が埋められているとの伝承。	6巻p115
37	塚	横手市大森町上溝字中野	高松山修行院の上祖が塚を築き、大般若経などを読経して塚に納め供養した。	6巻p116
38	太田塚	横手市大森町八沢木字中房	保呂羽山仁王門の近くに「塚松」がある。太田小治郎某という武士の塚(墓)。	6巻p121・169 8巻p167
39	道祖神	横手市大森町上溝字寺内	積石塚。立派な松の木も伴う。八沢木から由利へ向かう道に所在。	6巻p124
40	三ツ塚	横手市大森町上溝字観音寺	3基の経塚のうち、1基から「久安五年(1149)己巳五月日僧良与」銘経筒が出土。	6巻pp.124-126
41	生塚	横手市雄物川町二井山	入定塚。大きな松が生えていた。「塚の下」という地名の由来。	6巻p133
42	石塚	横手市大森町八沢木字屋敷台	保呂羽山二の鳥居傍。「頭槌剣」の柄頭に似た石、1尺(約30cm)余りの「雷斧石」が出土。	6巻p168・189
43	臼井塚	横手市大森町八沢木	保呂羽山一の鳥居下方の路傍に所在。臼井内記憐好の墓。	6巻p169・234
44	経塚	横手市大森町	「堀切」という所に所在。大友氏某の奥方は仏教を厚く信仰した人で、保呂羽の神に読経を続けていた。奥方の死後、残された経典は塚に埋められた。	6巻p169・171
45	下居塚	横手市大森町八沢木	田の中に小規模な塚がある。天平宝字元年(757)に、保呂羽山波宇志別神社が最初に建立された地であると言われる。	6巻p169
46	梵天塚	横手市大森町	元々は赤松と桜の老木が生えていたが、枯れてしまった。後に若松が1本植えられた。昔、保呂羽の御神御遷幸の際に「ぼんでん」を立てた所と思われる。	6巻pp.169-170・ pp.180-181
47	白石の碑	横手市大雄字鶴巻田	「六拾六部大乘妙曲」の碑か。磨滅しているため、定かではない。	6巻p221
48	いちりづか 一里堆	横手市大雄字阿気	「不焚野」に所在。大きな梨の木が1本あったが、雄物川の岸が崩落して消滅。	6巻p222
49	一葉塚	横手市雄物川町薄井	「両頭社」前に所在。石碑に「一葉散る行衛や空に無一物 無外一叟居士 寛政六甲寅年(1794)八月四日」の銘。方示碑。「無外一叟居士」とは矢野喜右エ門一艸のこと。現存しており、旧雄物川町有形文化財・歴史資料である。(図版3)	6巻pp.234-235

番号	名称	所在地	内 容	巻・ページ
50	傾城塚	横手市大雄字田村	「傾城塚」に所在。1辺約7.2mの方形を呈する、2段構造の塚が2基ある。	6巻p256
51	狐森	横手市大雄字桜森	狐穴のたいへん多い古塚。	6巻p269
52	大福塚	横手市下八丁	田の中に所在し、近くに白山姫社がある。大福院永懷法印にちなんだ名称。	6巻p275
53	傾城塚	横手市平鹿町浅舞	浅舞の「五塚」の一つ。傾城(美人あるいは遊女)を生き埋めにした所とも、行き倒れた傾城の遺体を埋めて供養した所とも伝えられる。	6巻p285・292
54	念仏塚	横手市平鹿町浅舞	浅舞の「五塚」の一つ。念仏行者の供養塚、あるいは塚(墓)であるとの伝承。	6巻p285・292
55	坊塚	横手市平鹿町浅舞	浅舞の「五塚」の一つ。清光院の祖・修験般若坊の塚(墓)という説がある。	6巻p285・292
56	獅子塚	横手市平鹿町浅舞	浅舞の「五塚」の一つ。昔大森の獅子舞と山田の獅子舞が闘った際、敗者となった大森獅子舞の獅子頭を埋めた塚である。	6巻p285・pp.292-293
57	鷹塚	横手市平鹿町浅舞	浅舞の「五塚」の一つ。鍋子清水のほとり、「御憩の杉」の下に所在。佐竹義隆の飼っていた鷹が逃げた際、そうとは知らず針一本でその鷹の目を貫き、射落とした浮浪人の逸話が伝わっている。射落とされた鷹を埋めた塚。	6巻p283・293
58	託宣塚	横手市平鹿町下鍋倉	由緒のある所であると言われるが、由来等、詳細は伝わっていない。	6巻p305
59	旭塚	横手市平鹿町中吉田	上吉田西法寺の西に所在。朝日という巫女の塚(墓)であるとの伝承。	6巻p310
60	ふるつか 古墳	横手市十文字町植田	「羽場」に所在。高さ6尺(約1.8m)、広さ(径?)3丈(約9m)ほどの塚で、上に大きな梨の木が生える。この塚を掘ったところ、板碑が多く出土した。	6巻pp.318-319
61	上海塚	横手市十文字町	「西野村」に所在。浄土院の祖の塚(墓)か。塚上に稻荷明神社が鎮座?	6巻p339
62	宗本塚	横手市増田町増田字福嶋	路傍の森の中に所在。石碑に「来悟宗本禅沙弥覚位 元禄十六年(1703)拾月廿四日」の銘。増田本町の千田彦右エ門の塚(墓)。	6巻p350
63	経塚	横手市増田町増田字福嶋	石碑に「奉写石一字三礼大乘妙典經全部 寛永元年(1624)八月甲申廿四日云々」とある。上述の「宗本塚」と並んで所在。	6巻p350
64	塵塚	横手市増田町増田字福嶋	病を治すと信仰された柳があり、人々は病の治癒後に米糠、藁などを根の周りに置いてお礼をした。柳が枯れても信仰は続き、塵塚が形成されている。	6巻p351
65	塚木	横手市増田町増田字福嶋	「渡辺柳」という柳の木。渡辺某という、由緒ある人の墓と言われる。	6巻p351
66	経塚	横手市増田町亀田	「虹が沢」という所に所在。梵字の書かれた小石が出土する塚。	6巻p383
67	塚	横手市平鹿町醍醐	「塚の下」という地名の由来となっている塚。どんな人物の塚(墓)なのかは不明。	6巻p396
68	己巳待塚	横手市十文字町梨木	「梨木羽場村」に1本の大杉があり、己巳待塚の印になっている。	6巻p397
69	獅子塚	横手市平鹿町	昔獅子頭を埋めた塚。梨の木が生えている。	6巻p439
70	七塚	横手市赤坂	藤原塚・鎌田塚・高橋塚・高山塚・佐藤塚・菅原塚・池田塚の七つの塚。昔、源氏が平氏の落人が土民となった際、姓名を添えた系図袋を埋めて塚とした。	6巻p460
71	しらみ塚	横手市前郷	「城見塚」とも言われる。また、村の草創帳に「しらげ塚」とある。その昔兵乱の際、焼けてしまった多くの米を集めて塚にしたとの伝承もある。	6巻pp.486-487
72	経塚	横手市山内	「福万邑」の薬師嶺の上に所在。石経を埋めた所か?	6巻p595
73	御腰掛塚	大仙市協和荒川	松の太木の下。藤原朝臣利仁が休憩した塚で、踏むと病気になるとの伝承。	7巻p32
74	朝日神子塚	大仙市協和上淀川	峰吉川との境に所在。路傍にある杉の老木を指すのか。「旭の神子」は、「境邑」の光雲寺の巫女であるとの伝承。	7巻p36
75	塚	大仙市協和小種	「土淵村」に所在。『享保郡邑記』に「境塚切」「間塚切」等、境塚を示す表現がある。	7巻p52
76	なしのきづか 梨子木壘	大仙市強首字乙越	伊藤氏の先祖が、家系譜や武家の調度品を埋めたとの伝承。木の葉大の平石で覆われており、石経塚とも言われる。塚の裾に梨の古木が生えている。	7巻p65
77	石経塚	大仙市大巻	寿命院という修験者が石経を書写し、埋めた塚であると言われる。	7巻p73
78	塚	大仙市協和峰吉川	滝の不動尊を詣でる途中、滝に落ちて死んだ老夫婦の墓。	7巻p78

番号	名称	所在地	内 容	巻・ページ
79	いちりづか 一里堆	大仙市刈和野	刈和野集落の近くにある一里塚。	7 巻p93
80	古墳	大仙市刈和野	食川の岸、浄土宗寺院・西念寺が元々あった場所に所在。西念寺の墓地か？	7 巻p101
81	七ツ塚(七ツ森)	大仙市土川字今泉	「心像村」との境、岩屋堂に所在。古柵の近くにあり、由来は不明。	7 巻p106・109
82	ななつづか 七箇堆	大仙市土川字生内	「土川の岸」にそびえる岩山との境に所在。	7 巻p113
83	山伏塚	大仙市土川	十二山の一つ、金山沢口に所在。この山より、錫杖が発掘されたこともある。	7 巻p118
84	塚	大仙市北檜岡	旅人との決闘に敗れた法釈坊の墓。真澄の時代には、既に塚は残存せず。	7 巻p140
85	法螺貝塚	大仙市北檜岡	山伏・宝性坊の遺品である法螺貝を埋めた塚だという伝承。	7 巻p143・156
86	塚(墓所)	大仙市南外南檜岡	慶長19年(1614)、合戦で討死した加藤重信の墓。稻荷神社の前にある。	7 巻p150
87	経塚	大仙市南外字坊村	石経塚か。周辺は「きやうづか森」と呼ばれているが、由来は定かでない。	7 巻p172
88	黄金塚	大仙市大曲西根	「切上」に所在。岩に生える「むかし松」の下に、黄金を埋めたという伝承。	7 巻p252
89	東海房塚	大仙市大曲西根	東海坊という修行僧の入定塚であるとの伝承。別名「生塚」。入定後21日間、昼夜鉦鼓を打つ音が続いたと言われる。「南蕃殿村」の東に位置。	7 巻p253・265
90	蝦夷塚	大仙市大曲西根	『永慶軍記』の記録にある、弘治・永禄(1555-1569)頃、蝦夷80人の戦死体を埋めた塚か。「切上」の「稻荷山」近辺に所在。	7 巻pp.253-255
91	太夫塚	大仙市大曲西根字中西根	同名の塚は、津軽の平内をはじめ各地に存在。	7 巻 p 263
92	塚	大仙市内小友字館前	三浦治部少輔政重に斬られた鍛冶屋の遺体を埋めた塚。塚上に杉を植えた。	7 巻p281
93	加茂次郎義継塚	大仙市内小友字館前	石碑。加茂次郎義継の墓であろう。寺院境内に所在。	7 巻 p 282
94	手向かい塚	大仙市内小友字館前	「大杉霊神」。信仰の対象となっていた杉を「手向かい塚」などと呼んでいた。	7 巻p282
95	山伏の墓碑	大仙市内小友字館前？	「荒町村」の村境に、庚申塔と共に所在。現在では館前集落に入る領域か？	7 巻p284
96	ふるづか 古墓	大仙市四ツ屋字諸又	要之助が斎主を務める水神社に所在。	7 巻p293
97	庚申塚	大仙市四ツ屋字新屋敷	「荒屋敷邑」に所在。この村ができたのは正保(1644－1648)頃か慶安(1648－1652)頃と考えられるため、塚の築造はそれ以降か？	7 巻p293
98	段録塚	仙北郡美郷町天神堂	永治2年(1142)4月18日銘の石碑。毎年この日に、村人が水神として祀る。	7 巻p367
99	犠の塚	横手市金沢中野字十二牲	十二種の生贄を埋めて塚としたとの伝承。現在の「十二牲」という地名の由来。	8 巻p25・38
100	みのり塚	仙北郡美郷町飯詰	石経を埋めた経塚であるとの伝承。	8 巻p25
101	高名塚	横手市金沢中野	「箭立杉」と呼ばれる大杉。権五郎景正の高名塚とも言われる。高さは2～3丈(6m～9m)ほどで、裾には「化石」と呼ばれる石がある。「矢立の塚」とも言う。	8巻p25・39・42・84
102	印塚	仙北郡美郷町飯詰	『享保郡邑記』に、境塚の存在を示す記述。	8 巻p47
103	塚	仙北郡美郷町飯詰	「天部ノ原」という所に大杉が1本ある。人の塚(墓)であると言われ、ここを掘れば人骨が沢山出土すると伝えられる。後三年の役で死んだ兵士の墓か。	8 巻p48
104	塚	大仙市高梨	母子の墓と言われる。2つの石が立つ塚。	8 巻p98
105	蛇塚	大仙市板見内字蛇塚	蛇を殺し、祟りに悩まされた男が蛇を神として祀った。その殺した蛇を埋めた塚。	8 巻p112
106	天学塚	大仙市豊岡字椿	昔「天覚院」という、天台宗あるいは真言宗の寺院があった場所と伝えられる。	8 巻p206
107	法華経塚	大仙市栗沢	「森下清水」に所在。法華経を埋めた塚。築造時期は不明。	8 巻p207
108	山伏塚	仙北市角館町雲然荒屋敷	「荒屋舗」の西の方に所在。入定塚であるとの伝承。	8 巻p272

註1 伊藤和美・高橋直樹2005『大見内遺跡・館野遺跡』秋田県文化財調査報告書第386集 秋田県教育委員会

註2 内田武志・宮本常一(編)1975『菅江真澄全集』第5巻、同1976『菅江真澄全集』第6巻、同1978『菅江真澄全集』第7巻、同1979『菅江真澄全集』第8巻 未来社



図版 1 大仙市角間川町旭塚 (No.23) 北から



図版 2 横手市大森町左門塚 (No.26) 南から



図版 3 横手市雄物川町一葉塚 (No.49) 西から



図版 4 横手市雄物川町首塚 (No.29) 西から